

令和4年度

彩の国埼玉環境大賞 受賞者の紹介

彩の国埼玉環境大賞は、環境保全などに取り組む個人・団体、SDGsなど環境・社会・経済に統合的に取り組む事業者を表彰し、その功績をたたえるものです。

令和4年度は、63組の応募に対し、審査会による審査の結果、大賞2組、優秀賞10組、奨励賞10組、計22組の受賞が決定しました。



テレビ埼玉マスコット
「テレ玉くん」



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」



県民部門

草加商工会議所

コミュニティフリッジによる食品廃棄ロス削減と生活困窮世帯支援の両立

主な活動場所 草加市

代表者 会頭 野崎 友義

平成28年度から地場産業の皮革事業者と連携し駆除した鹿の皮を製品化するなど廃棄ロス削減の取り組みを開始。令和4年度から商工会議所主導によるコミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)事業を新たにスタート。

廃棄予定となる食品を引き取り、公共冷蔵庫に入れ、生活困窮世帯などに提供することで、食品廃棄ロスの削減に貢献。

商工会議所が主導となることで、地域の事業者や利用者などを巻き込み、自立的・安定的な事業として展開している。



事業者部門

株式会社 CRS埼玉

自動車破碎残渣減量及び地域での啓発活動による循環型社会形成への取組

主な活動場所 川越市

代表者 代表取締役 加藤 一臣

車体バンパーの樹脂チップ化によるリサイクルやエアバック・シートベルトの生地を、素材の特徴を活かしてバックとしてアップサイクル製品とするなど、リサイクル困難な廃棄物の減量・資源の循環に取り組んでいる。

また、エアバック生地を活用した上履き袋の小学校への寄贈、高校デザイン科の生徒がアップサイクルバックを製作するための生地の提供、SDGsイベントの開催など、地域の住民や企業が環境意識を高める活動を行っている。





県民部門(6組)

特定非営利活動法人

NPUサイエンスアカデミア

代表者 代表理事 野澤 直美

主に秩父地域の子供たちや社会人などに対して、秩父の自然の魅力と深さに焦点を当てた秩父サイエンスアカデミーを実施している。

「実験の部」では、教育委員会など各機関との連携を図り、地球環境問題や森の働きについての講演と実験を行い、「研究発表の部」では、秩父の自然や森林等を研究している多彩な研究者(小学生～社会人)の発表会を展開。秩父地域1市4町の後援を得て毎年実施するなど地域に定着した取り組みを行っている。



埼玉県立桶川西高等学校科学部

代表者 学校長 脇岡 誉士

教室の一室に大型水槽を置き、約50種類800匹以上の魚類を中心とした様々な生物を飼育・展示。ハートフル桶西水族館として年間約2000人の来館者がある。小さな子供の来館者には、模擬釣り体験やすごろくを通して、分かりやすく在来・外来生物の問題点を説明している。

また、地域の自然再生事業での在来・外来魚の展示やコウノトリの保護繁殖への協力、サケの稚魚を育てて放流する活動など、活動の幅を拡大している。



特定非営利活動法人

埼玉県建設発生土リサイクル協会

代表者 理事長 小沢 正康

建設発生土のリサイクルを普及促進させるため、平成9年度全国に先駆けて協会を設立し、25年にわたり活動を継続。県内12のプラントにおいて建設工事で発生する土を石灰改良し、盛土材や埋め戻し材等として再利用するとともに、工事現場間での建設発生土のマッチングを行うことで、建設発生土の量を抑制している。

また、家庭の植木鉢の土の回収活動や浄水場から発生する土と黒土を混合し園芸用土にする活動を行っている。



特定非営利活動法人

つるがしま里山サポートクラブ

代表者 代表理事 小澤 邦彦

市民の森を中心に子ども達や保護者に森を体験してもらい、その大切さを考えてもらうことを目的に平成15年に設立し、20年にわたり継続して活動。学童クラブや学校と連携し、子ども達の自然体験イベントを多数開催するとともに、里山調査、植樹なども展開。10haを超える市民の森の清掃活動では、地域の他団体と連携して取り組んでいる。川の清掃活動によるホタル発生やイベント参加者も増えるなど地域における環境への関心を高めている。



埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校

代表者 学校長 掛川 達雄

特別支援学校の生活単元学習として行う農作業活動において、所沢市と地元農家の協力のもと、地域の伝統である「落ち葉堆肥農法」を学び堆肥作りを行っている。地元里山の森林資源を有効に活用し、地域との連携の中で環境循環学習(里のSDGs学習)を行い、さらに堆肥農法を経験しながら持続可能な社会を目指し、障害者と地域がふれあう共生社会と、地域の環境保全に寄与している。



比企自然学校

代表者 代表 櫻井 行雄

比企の自然・文化を生かした持続可能な社会を目指して平成13年に設立。「川の学校」「森の学校」「おとなの部活」など、地元の自然を活用した環境保全活動や交流の場づくりを長年にわたり実施している。

川の学校では、小中学生を対象にした川遊び教室やカヌー体験会、プラごみ回収活動など実施し、森の学校では、里山の間伐や薪割り体験会などを行っている。薪は、「里山薪」として販売し、その収益と会費で自立運営した活動を行っている。



事業者部門(4組)

ウォータースタンド株式会社

代表者 代表取締役社長 本多 均

水道直結型の浄水型ウォーターサーバー(ウォータースタンド)を活用し、平成30年から使い捨てプラスチックボトル削減を目的としたボトルフリープロジェクトを開始。

公共施設等にウォータースタンドを設置し、マイボトルの利用を呼び掛けている。また、教育機関への出前授業や環境問題のポスター掲示などを通じ、マイボトルへの給水の意義・目的を発信し、ライフスタイルの見直しにつながる啓発活動を実施している。



株式会社きぬのいえ

代表者 代表取締役 吉田 昌弘

黄ばみや退色などで捨てられてしまう衣類を染め直して再度着られるようにする染め直しサービス「SOMA Re:(ソマリ)」を行っている。

衣類を染め直すことで、廃棄される洋服の処分量を減らすとともに、新たに蘇らせるといった価値を付加させ、衣類の使い捨ての流れを変えることで、環境負荷を考慮したサステナブル(持続可能)なファッションにつながる取り組みを展開。



西武バス株式会社

代表者 代表取締役社長 塚田 正敏

CO2排出量削減のために、路線バスの一部において、軽油に代わる燃料として、従来の化石燃料ではなく、バイオディーゼル燃料や廃食油等再生可能資源由来の燃料を原料とするディーゼル燃料(リニューアブル燃料)を利用した運行を実施。

リニューアブルディーゼルで走る旅客バスは日本初。持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「サステナビリティアクション」として位置付け、公共交通機関として地球環境負荷軽減のために積極的に取り組んでいる。



古郡建設株式会社

代表者 代表取締役 古郡 栄一

ジョギングを楽しみながらゴミ拾いをする「Plogging」(プロギング)は、街のゴミが減り、健康にも良く、コミュニケーションの活性化という一石三鳥の活動。

関係機関と連携・協力し、参加企業や一般参加者も募るなど活動を継続・発展させるとともに、SNSなどで発信しメディアにも取り上げられる。

「社会貢献したいけど何をしたら良いかわからない」という声があるなか、SDGsを広めるきっかけとして、気軽に参加できる取組みを推進している。



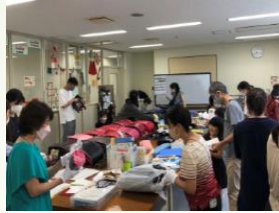


県民部門(6組)

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会

代表者 会長 松下 昌代

自宅に眠っている不要になったランドセルや学習用具を必要な人に無償でつなげていく取組。制服・体操服は朝霞市のリサイクル事業を支援する形で実施しつつ、市は広報への定期的な掲載協力を実施するなど行政と協働した活動展開。



一般社団法人 一掃計画

代表者 代表理事 増田 樹

「海に流出するゴミを無くす」をコンセプトに、楽しさや満足感を得られるイベント化されたごみ拾い活動「TRASH ROYAL(トラスシュロワイヤル)」やBBQを掛け合わせた「The Cleanup BBQ(ザ クリーンアップバーベキュー)」などを開催。



特定非営利活動法人 埼玉ハンノウ大学

代表者 学長 小野 まり

飯能市の全体を大学の「キャンパス」に見立てることでメディア化し、まちに関わるすべての層が参加できる「授業」を出会いの場として、ネットワークづくりを行う。

地場産業の「林業」や、観光資源である「自然景観」など自然環境と歴史文化を、次世代に継承することを目的としている。



あすばる自然観察会

代表者 所長 大熊 良太

住宅街に残された斜面林の自然を、子どもたちの自然体験活動を交え守っている。参加者は市内15校・15幼稚(保育)園と拡大している。絶滅危惧種のアカガエルの保護調査活動は11年となり、様々な工夫をし、衰退の危機を乗り越えている。



さいたま市立芝川小学校・遮熱フェス実行委員会

代表者 代表 佐藤 喜夫

小学校の教室に、断熱材や遮熱パネルなどの断熱対策を行い、6℃以上の室温の低下を実現。PTAのみならず、メーカーとも幅広い連携・協力を得る。設置作業は、子どもから大人まで幅広い参加のもとワークショップ形式で開催し、体験型環境教育としても寄与。



本庄すみれ幼稚園

代表者 後藤 芳生

幼稚園での段ボール・雑誌・新聞の回収を実施する中、園児全体でリサイクルの方法や必要性を学ばせている。

また、園所有の畑で自ら食べる野菜を育てる活動や生ごみをコンポスト化して畑の肥料とするなど食物の循環についても学習。



事業者部門(4組)

株式会社警備ログ

代表者 代表取締役社長 長谷川 功一

自社が運営する「企業ユニフォーム廃棄ゼロエミッション推進委員会」の事務局で購入された仕事着(ユニフォーム)を対象として、不要(入替)時に無料回収し、リサイクルを行い循環経済・サーキュラーエコノミーとして、企業ユニフォームの廃棄ゼロを目指すゼロエミッションプロジェクトを展開。



株式会社新富士空調

代表者 代表取締役会長 梶野 勇

折り畳みが可能なダクト「エコダクト」を開発。コンパクト化による運搬車両台数の低減のほか、強度化による薄さの実現で高炉から排出されるCO2の削減に寄与。

また、グラスウール断熱材を使用しない100%再生可能材ダクトの開発など、環境保全対策した新技術開発に注力している。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

代表者 代表取締役社長 最高経営責任者 カリン・ドラガン

容器由来の廃棄物削減と、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用に向けた取組みとして、「ボトルtoボトル」を推進。

2022年4月からは、埼玉県内初の「ボトルtoボトル」の取り組みを見沼町と協働でスタート。町内集積所で回収された使用済みペットボトルの全量リサイクルを推進し、資源の循環利用に町民・事業者・行政が一体となり、協働で取り組む。



株式会社タムラ製作所 坂戸事業所

代表者 代表取締役社 浅田 昌弘

環境を意識した社屋の建て替えにより「Nearly ZEB」として整備。その後の対策の実施により、事業所の電力によるCO2排出量は実質ゼロとなる。

事業所周辺のクリーンアップ活動やコンポストの設置、廃油の再利用など従業員がアイデアを出し合いながら実践する様々な取り組みを展開。



次回の募集

次回の応募については、詳細が決まり次第、県ホームページでお知らせする予定です。これまでの受賞者の情報を参考に御覧いただき、ぜひ御応募ください。過去の受賞はホームページから御確認いただけます。

問合せ先

埼玉県環境部環境政策課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

☎ 048-830-3019

✉ a3010-08@pref.saitama.lg.jp

彩の国埼玉環境大賞

検索